

〈令和6年度 東京都立大島高等学校 全日制課程 学校経営報告〉

学校名 東京都立大島高等学校
校長名 佐々木 一憲

令和7年3月31日

1 取組についての報告と評価

(1) 教育活動への取組と達成状況

《教育目標》 五訓に基づき、郷土を敬愛し、自己の尊厳を覚り、真理を究明し、誠実をもって事を達成し、常に健康かつ明朗で勤労を貴ぶ人材を育成する。

○誠実 Sincerity ○敬愛 Respect ○勇気 Courage ○自尊 Self-esteem ○自主 Independence

《教育目標を達成する活動内容》

- 誠実で豊かな人間性をもつ知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。
- 郷土を愛し、誇りをもってその良さを世界に発信できる人間を育成する。
- 勇気と行動力をもって困難に立ち向かうことのできる逞しい人間を育成する。
- 自己を信じ何事にも前向きに取り組むことのできる人間を育成する。
- 自ら考え判断し行動できる自主性と創造力をもった自立した人間を育成する。
- 教職員の絶え間ない研鑽と組織的・継続的な教育活動を推進する。

《今年度の数値目標の達成状況》

目 標 内 容	数 値 目 標	達 成 状 況
入学満足度 生徒・保護者	85%以上 (5年度生徒98%、保護者82%)	生徒97%、保護者81%
学力向上の取組への満足度	肯定的評価 85%以上 (5年度生徒91%、保護者68%)	生徒75%、保護者70%
第3学年の希望進路決定率	100% (5年度実績94%) 2名 (5年度実績2名)	100% 大学・短大17名、専門学校10名 就職5名(内公務員1名)、その他 1名
国公立大現役合格		2名
講習・補習の充実	30講座300時間以上 (5年度82講座583時間)	80講座 600時間
資格検定試験の積極的な取組	全生徒の延べ80%以上 (5年度 92%)	92%
2級以上取得者	10名(5年度9名)	実用英語技能検定 準1級合格者数 0名 2級合格者数 6名 準2級合格者数 5名 3級合格者数 1名
教職員研修	4回以上 (5年度10回)	(コンプライアンス、体罰防止、服務事故防止、3回) 新着教員対象教務研修会 1回 本校における生活指導 1回 防災研修(心肺蘇生・簡易担架) 1回 防災研修(土砂災害・避難所運営) 1回 C4th 研修会 3回 オンライン学習デー向け研修会 1回 入選採点研修会 1回 入選研修会 1回 計13回
出席状況に課題のある生徒割合	2%以内 (5年度3%)	6%

部活動加入率	90%（4年度95.6%）	95%
出前授業、公開授業、交流事業	30回以上（5年度54回）	家政科18回 農林科23回 教務部主催18回 ○延べ回数59回
専門科技術検定取得者数 農林科・家政科 その他の検定級別人数内訳		家政科 6名 農林科 9名 計15名
国際理解教育の推進	3回以上（5年度3回）	英語科3回 国際理解講演会3回、 計6回

（2）取組状況と自己評価（4段階 高4～低1）

ア 学習指導：基礎学力の定着と進路に応じた発展的な学力向上を図る

【 3 】

- ① 生徒による授業評価を実施し、結果を各教員にフィードバックし授業改善を実施した。
学校評価アンケートでは、「学校は学力向上に取り組んでいる」の質問に対し、生徒は75%、保護者は70%が肯定的回答であった。昨年度、今年度と進路実績を上げているが数値が昨年度より下がっている。進路実績をオープンにして生徒、保護者に対して見える化を工夫する。
- ② 主体的・対話的で深い学びを目指す授業を、全ての教員が積極的に取り入れて実践、グループワークを適切に行っている。対話的な学びについて適切な時間とタイミングを模索して実施している
- ③ 50分授業を大切に、チャイムと同時に授業が展開できる体制を継続した。
- ④ 教員相互の授業見学、他校、指導教諭の模範授業等(オンライン含む)を年間2回以上実施は全員の教員が行っている。若手研修並びに自主的な授業公開・参観は校内に浸透している。
- ⑤ 一人一台端末の活用のためのICT機器の研鑽を定期的実施、授業時の有効活用、生徒への連絡、修学旅行中並びに事前、事後活用を実施。校務支援システム活用は順調である。次年度以降は、教育ダッシュボードとの連携と活用が課題である。
- ⑥ 教員の勤務時間を割り振り、放課後の自習室の体制を整え、進学者に対応した。今年度はオンラインチューターによる指導助言は実施しなかった。自習室は生徒利用ニーズを把握してから行った。持続可能な監督体制とするため、教員の勤務時間の割り振りが課題である。
- ⑦ 言語活動の充実に向け、各教科で記述、発表、小論文指導など授業を通じて取り組んだ。昨年に引き続き論文指導の取組は、多くの教員が進路指導対策として研修を受講してから行った。

イ 進路指導：生徒の自己理解を進め希望する進路実現を支援する

【 4 】

- ① 進路部と学年が連携を図り、進路指導の情報共有・資料提供を行い、進路塾を毎週実施している。学校評価アンケートでは「進路情報を提供し進路実現の指導をしている」の質問に対して97%の生徒が肯定的な回答をしているのに対し、保護者の回答は60%であった。進路情報となるリニューアルした背骨通信を各学年に定期的に配布しているが、保護者のもとへ届いていない家庭があるようである。新たな保護者通知サービスが始まるので、それを活用する。
- ② 検定・資格取得試験等の実施については、英語検定には準1級なし・2級6名・準2級5名が合格、日本農業技術検定には2級1名、3級7名が合格、FFJ 検定上級1名、家庭技術検定（調理及び被服）3級に2名が合格、商業系検定には簿記検定31名、情報処理検定に33名、秘書検定に8名延べ72名が合格し成果を挙げた。
- ③ 生徒の学力の定期的な把握を行い、それをもとに面接指導を継続して実施した。
- ④ 平日や長期休業中の講習・補講を必要な生徒に実施した。模擬試験、検定等は週休日を中心に実施。
- ⑤ 進路実現に関して進路指導部を中心とした指導の体制確立を今後も継続する。面接、小論文指導は学校を挙げて手厚く行い進路実現に当たって効果を上げた。結果、進路決定率100%、大学・短大17名、専門学校10名、就職等5名(内公務員1名)、その他1名の結果となり生徒の進路実現を支援した。

ウ 生活指導：生徒との人間関係づくりを基本に体罰0、人権尊重、健全育成の指導体制を推進する

【 3 】

- ① 落ち着いた学習環境の確立やルールやマナーの遵守等、規範意識の醸成につなげる指導を学年、生活指導部の指導により継続的に行った。しかし、遅刻数が増加傾向にある。来年度は対策を立て全学年で対応する。

- ② 教育相談機能の強化、特別支援委員会の定例開催を継続し、対象生徒を通級や教育相談に繋げ、個別最適な支援を目指し取り組んだ。委員の多くが今年度異動となる。再構築と持続可能な組織的な取り組みが必要である。来年度一年この形態を続け、校務分掌化できるか検討する。
- ③ いじめに関するアンケート、体罰防止アンケートを全員に実施し、生徒の返信に応じていじめに対する理解が深化するよう適切な対応を行い、健全育成に努めた。
- ④ 時間厳守、あいさつ・遅刻などに対して組織的な指導を実施した。朝のあいさつを利用して、身だしなみの指導を継続した。
- ⑤ 特別活動、学校行事については、通常通り実施した。昨年は学校祭の後にインフルエンザが蔓延し、学校閉鎖となったため、同じ轍を踏まないように注意を払った。
2年生修学旅行は態度も良く生徒にとって思い出に残るものとなった。生徒部活動対外試合等の宿泊を伴う校外学習、引率は通常どおり実施できた。
今年度も学校保健計画に基づく定期健康診断、教育相談、第1学年生徒のスクールカウンセラーとの全員面接を実施し、カウンセリングの充実を図った。相談指導の周知、保健だよりの定期的な配布により、保護者に対しても適宜情報発信を実施できた。
- ⑥ 学校保健計画に基づく学校保健活動を実施した。保健委員会の活動の活性化を図った。保健計画に基づき柔軟に保健活動を実施した。
- ⑦ 生徒の防災意識を高めることを目的に、町の防災関係各所と連携し、生徒主体的に考える防災訓練を実施。事後には防災支援隊による防災の啓発発表も行った。防災推進委員会については、来年度は全定合同で実施することとした。

エ 『専門教育』農業や家政の専門教育の充実。広報活動、国際理解教育、東京2020レガシーの推進【4】

- ① 農林科は地域の小中との充実した連携を行い、主に野菜、草花、畜産とのふれあいなどを実施した。併せて企業連携により、明日葉入り鉱泉煎餅、塩レモンゼリー、塩ミルク餅など、大島の特産品を使った菓子を島内で継続販売し、定番土産化を図った。
- ② 家政科は地域の保育園、小中学校との連携に努め町立学校よりいつも感謝されている。実習に於いては寿司や郷土料理をはじめ、数多くの町を中心とした商店、企業、専門学校と連携し、知識と技術を身につけ社会に開かれた教育課程を実践した。
- ③ 都立大島公園や関係諸機関と連携し、本校の「国際優秀つばき園」を活用した国際交流活動・広報活動の充実に努めた。
例年の椿祭り中に生徒による椿ガイドを行っただけではなく、国際ツバキ協会の2025年3月国際大会を東京で開催したことから、全校を挙げて英語によるガイド、並びにおもてなしを実施した。
農林科を中心に椿ガイドを行い、誘導をイングリッシュクラブと英語を得意とする生徒がJET教員、英語科の教員の指導を受け実施。茶華道部の生徒がお点前を披露した。また、別途行われた町主催の歓迎行事であるオペラ椿姫と併せて、本校吹奏楽部、郷土芸能部が演奏を行い大盛況に終わった。
同時に、農林科、生徒、教員が準備と整備をした国際優秀椿園の更新審査を行った。
- ④ 学校広報誌「農林科通信」「家政科通信」を発行し、広報「おおしま」、地元メディア、新聞に情報提供して本校のPR活動に努めた。農林科や家政科の地域活動、企業連携活動は、SNSで掲載し認知度向上をねらっているが、現状横ばいである。
- ⑤ 年間を通じて保育園、小中学校との交流授業、出前授業を実施した。併せて学校説明会並びに町立中学校生を対象に本校に招待し、授業、併合科の実習の見学会を実施した。さらに10月には農林科、12月には家政科の体験入学を実施し、入学予定者の確保に努め、島内生徒75%の入学見込者の確保ができた。
- ⑥ 今年度も東京駅の百貨店で実施した全国農業高校収穫祭(11月)に参加し、農林科生徒による生產品販売実習を行った。本場の百貨店で商品管理・販売・会計など、ビジネス活動における一連の流れを体験できた。
- ⑦ 国際理解講演会(7月)、オリンピック選手の来校・交流(レスリング8月)、バレーボール部は、他の高校(複数)との合同練習(8月)などを実施したことにより日頃島内ではできない体験ができた。その他、地域理解のためフィールドワーク(7月)、玉川大学芸術学部によるワークショップ(9月)により社会性、表現力、協調性を高めることができた。

- ⑧ 海外学校間交流推進校、国際交流リーディング校としてハワイ州のヒロ高等学校との交流を実施、10月にはヒロ高校生徒、教員が来校し親睦を深めた。現状、円安で本校が渡航できにくい環境にある。
- ⑨ 1月に東京都の専門高校生徒海外派遣研修に生徒4名が選ばれ、都内高校生と共にヨルダンに派遣された。事後、校内並びに東京都主催の発表会で報告を、3月には全校生徒対象に報告会を行った。
- ⑩ 3学年生徒が昨年度令和5年度次世代リーダー育成道場第12期に選考され、1月より派遣、11ヶ月オーストラリアへ派遣され無事帰国、12月に全校生徒対象に報告会を実施した。今年度は国際交流の機運が高まる1年であった。

2 次年度学校経営への評価の観点と改善策

(1) 学力・授業力向上

【評価】主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善。授業評価アンケートによる授業改善の取組。一人一台端末の授業での有効活用。

【改善策】生徒の学力向上についての取組を求める評価結果に基づき、入学生徒の学力分析、基礎学力定着・受験指導との両立を図る授業の工夫。授業評価アンケートの継続。今年度、教育庁総務部教育政策課島しょ教育DX担当より「島しょ地域の学校におけるデータ分析事業」を昨年度同様に実施した。今後大島町小中学校との生徒情報連携システムは、校務支援システムとの連携に繋がり健康面、学力面などの有効活用が見込まれる。

(2) 進路指導・キャリア教育の充実と生徒の進路実現

【評価】生徒自身の目標を見通した3年間を見通した進路指導の実施とキャリア教育の実践。進路情報の継続的提供。

【改善策】学年、進路部の連携は勿論のこと、すべての教員を巻き込んだ組織的な進路指導の実施。学習状況・進路希望状況の生徒情報の共有、三者・二者面談に基づく計画的な指導を継続。保護者に向けての情報提供の強化。進路講習の発展的継続。加えて共通テスト受験者が増加傾向であることから、私大のみならず国公立合格者を目指す指導を継続させる。

(3) 生活指導・健全育成

【評価】生徒一人ひとりの個性や発達段階、生活状況などを考慮して、生活習慣や態度、行動などを配慮した丁寧な生活指導と、安全・安心を念頭に置いた危機管理の徹底。折れない心（レジリエンス）をもった生徒の育成を目指した教育相談体制の確立。

【改善策】学校危機管理計画による危機管理の共通理解の徹底と安全・安心の学校づくりの継続。教職員の個人情報管理徹底の継続、持続可能な仕組みにより実施。スクールカウンセラーとの定期的な報告を受け、心を大切に教育に繋げる。些細なことでも確認し、いじめ問題を精査するために学校サポートチーム等の更なる活用する。生徒の心に共感し、心を育てる指導を大切に指導展開する。

(4) 特別支援教育の組織的な取り組み、義務教育（特別・通級学級）との連携、接続した指導。

【評価】諸機関との連携、生徒の状況把握に基づいた実践。

【改善策】定例特別支援委員会での情報共有、協議した結果を全教職員と共有する組織的指導の実施。スクールカウンセラー・発達心理士、中野特別支援学校等関係機関の継続的連携の継続。新1学年に調査を掛け求めに応じた通級指導の充実と組織的指導を行う。

(5) 広報活動の取組

【評価】学校ホームページ、SNSの更新回数、大島町広報の活用。

【改善策】併合科の授業や学校行事、部活動報告など適切な写真を用いた効果的な情報発信を継続。適切なコンテンツの充実をさせる。ホームページとSNSの効果的な使い分け、分かりやすい表示。新聞、メディアへの広報活動を継続する。地域連携、企業連携など本校の強みを発信し続ける。離島留学について大島町と詳細を詰め、8月には説明会と学生寮の公開を実施する。来年度は大島町の中学生と都内の離島留学希望者に向け本校のPRを強化する。